



平成 18 年 7 月 20 日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所 1 号機の原子炉手動停止について

(原子炉再循環ポンプメカニカルシールの機能低下)

当社、敦賀発電所 1 号機（沸騰水型軽水炉：定格電気出力 35 万 7 千キロワット）は、6 月 1 日復水器伝熱管からの海水漏えいが発生したため、出力を約 42% として補修作業を行い、6 月 18 日から定格熱出力一定運転中のところ、この時から 3 台ある原子炉再循環ポンプのうち、B 号機の軸封部※（メカニカルシール：第 1 段シール部と第 2 段シール部を有する）のうち、第 2 段シール部から機器ドレンサンプに回収されるシール水の量が徐々に増加する傾向が認められました。

このため、監視を強化していましたが、シール水の増加傾向が大きくなってきたことから、今後の運転に万全を期すため、計画的に原子炉を停止し当該軸封部を取り替えることとしました。

今後、7 月 21 日 20 時頃から出力降下を開始し、翌 22 日 0 時頃発電停止、同日 5 時頃に原子炉を手動停止する予定です。

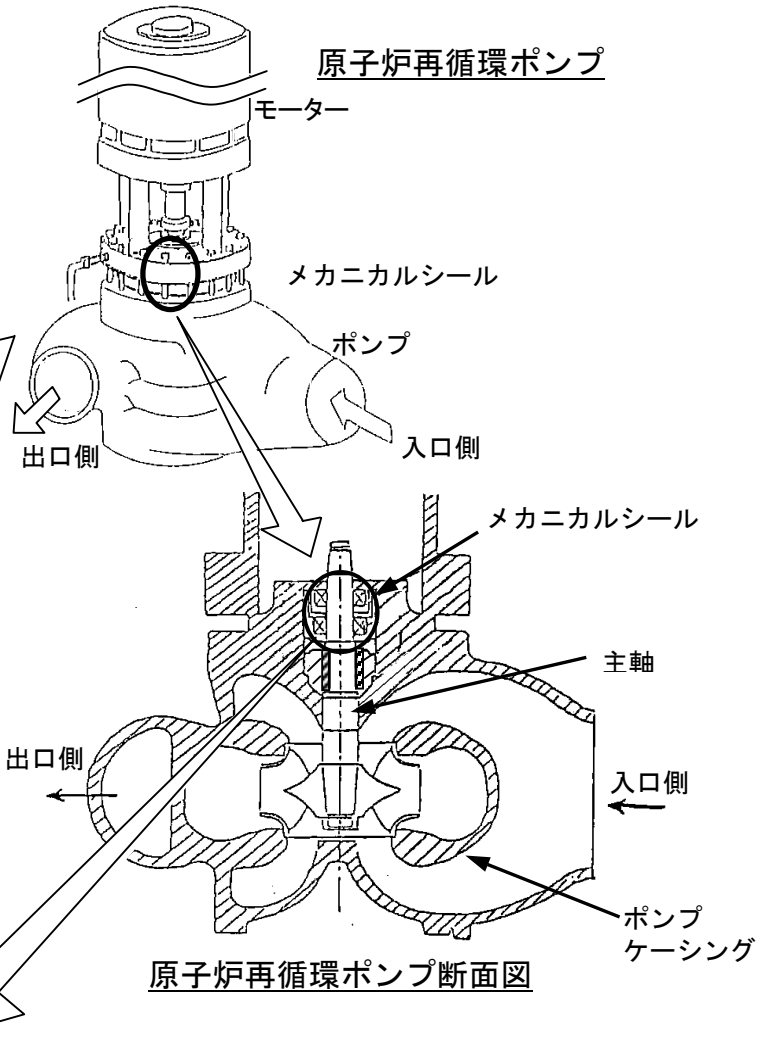
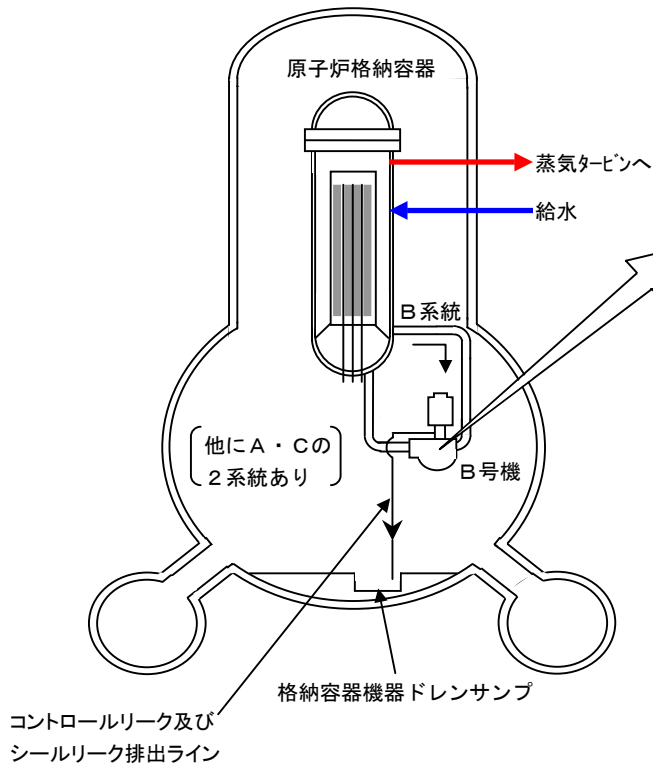
なお、本事象による周辺環境への放射能の影響はありません。

※：回転するポンプの主軸に沿って冷却水がモーター側に漏れ出ないように、専用のシール水を軸封部に注入し、ポンプ軸につながる回転リングと固定リング（ケーシング側）との間での接触部で漏れを抑制する構造となっている。

以 上

原子炉再循環ポンプメカニカルシール部状況説明図

系 統 概 略 図



メカニカルシール概念図

